

★ 学校関係者評価の目的

- 1、目的
- 地域住民、保護者、卒園児保護者、地域学校などの学校関係者が、本園の自己評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

○ 学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

★ 学校関係者評価委員会の実施状況

- 1回目 令和6年5月29日(水) 10:00～11:30 計画報告

○ 2回目 令和7年2月28日(金) 10:00～11:30 結果報告

★ 学校関係者評価委員会報告

- 1、重点目標について
- 本園の教育目標、教育内容について、保護者や社会へよりわかりやすく具体的に伝える方法を考える

○ 多様化する社会のニーズをくみ取り、これからの本園が向かう方向を捉える。

≪目標を達成する方法≫

方 法	担 当	備 考
・クラスだより	・全クラス担任	・紙で保護者に配布
・遊び記録	・全クラス担任	・学期末に紙で配布、回収を行った
・未就園児クラスだより	・未就園児クラス担当者	・未就園児クラス参加保護者に紙で配布 ・各所チラシ配布協力場所にチラシと共に設置
・預かり保育だより	・預かり保育担当者	・園のアプリにデータで配布

≪取組の経過・成果≫

新たな取組	ねらい	経過・成果・保護者より	学校評価委員会よりご意見
クラスだよりの変更	・従来の楽しさだけを伝えるクラスだよりではなく、保護者と教育内容を共有することで保護者コミュニケーションツールになる	・保護者も園側の思いやねらいを知れてよかった。 ・玄関の外に印刷したものを掲示することで、他のクラスの様子もわかって、よかった。	・学校でも学校通信で使う写真を、その場に居たから、とてもいい瞬間をおさめたと思っているが、その場に居なかった方々にも伝えればよいと思ってやっている。写真選びは大変。
遊びの記録の配布	・がんばったこと、夢中になったことなど学期に1度配布し、1枚に1年分記録することで成長が見えてくる ・家庭と園との共通点を知り、コミュニケーションツールになる。	・小さな子どもたちの成長は、『毎日』で、興味や好奇心も日々移り変わる。また、関わる教員にとっても、子どもたちの成長はとても嬉しく、すぐに保護者に口頭で伝えている。そのため、学期に1度の配布では、伝えたいことは、報告済みで、情報の選択が難しかった。 ・口頭で伝える「言葉」と違い、文章ではニュアンスが伝わりにくいため、文字おこしにも時間がかかった。 ・有効な情報を記載できているか、あいまいだった。 ・教員の負担が増えているように思えた。 ・情報が子どもの成長に追いつかず、内容の物足りなさを感じた	・小学校でも教員の負担軽減のために通信簿の所見欄をやめるという話になっている。 ・タイムリーな情報を伝えられるツールがあるのなら、なくてもよい。
未就園児だより	・未就園児クラスを、地域の方々に知ってもらう	・配布を役場の方々にお任せしていたが、自分たちで展示するように心掛けた。それにより、より最新の情報を展示することができた。	

預かり保育 だより	・ただ時間をやり過ごすわけではなく、預かり保育ならではの育ちを知り、預かり保育に親しみを感じてもらう。	・大人の関りがなくとも、年長者を見本にし、小さな子への配慮をする、という縦割りの利点を、様々なシーンで伝えることができた。 ・データの配信、玄関に掲示のみだったが、数枚印刷し、玄関に置くな どしても良かった。（欲しい人のみ持ち帰り）	
--------------	---	--	--

≪その他発信方法≫

方 法	対 象	担 当	備 考	学校評価委員会よりご意見
・ホームページ	制限なし	・事務	・情報のずれがないように、逐一確認	
・インスタグラム	制限なし	・保育補助	・園内行事等、園の流れを逐一アップ	・若い保護者のツールとして、とても有効。しかし、Instagram を見たいが、登録をすることで、個人のアカウントが他人に知られてしまうことが嫌だという声が聞こえた
・教育保育施設業務支援アプリ	園 児 の ご 家 族 限定	・全クラス担任 ・事務	・お知らせなどの手紙類の添付 ・日々の生活の写真展示、販売 ・保護者との連絡帳 （登降園管理、欠席等の連絡、請求・申込関連など）	

★ 取組についての評価

評価（A:十分に成果があった B：成果があった C:：少し成果があった D：成果がなかった）

評価	理 由
B	・以上児は週に1度、未満児は毎日、子どもたちの様子を写真付きで配信しているため、月に1度や学期に1度の頻度のものは、情報の選択が難しかった。「遊びの記録」では、ねらい通りの結果が得られなかったように思う。 ・それ以外の保護者向けの取組みは、ほぼねらい通りの結果となった。 ・地域社会への手段としては、行きわたらず、今後の課題となった。年単位で変化する社会のニーズに対応するため、今年度、社会への発信を重点として行ってきたが、次年度は、発信する内容を考えた方が良い。これから本園が向かう方向は、子どものより良い育ちはもちろんのこと、合わせて、働く保護者とその子どもたちのフォローに重点を置いていくべきではないかと考える。

【学校関係者評価委員会より】

- ・教職員が子どもたちに温かく対応してくれているのはとても伝わるが、写真選び一つとっても、大変な作業であることはわかるので、教職員の負担になることは減らしてほしい。発信方法ひとつとっても、たくさんやっているのに、負担が多く感じる。何か減らして、子どもたちに関わる時間を多くしてほしい。
- ・すべての教職員が働きやすい環境づくりを徹底してほしい。
- ・教職員の自己評価が低いが、自分に厳しすぎではないだろうか。もう少し、良い評価をつけられると思う。

★ 今後の課題

- ・教職員の作業をICT化し、ほとんどの作業をPCやタブレット、カットティングマシンなどを使い簡略化しているが、残業のばらつきが目につく。業務内容を細分化し、一人ひとりの教職員が、子どもたちのためにかける時間の確保につなげたい。
- ・働く保護者が増えた近年。働く保護者のための支援は進化していくが、家族と一緒に忙しい時間を過ごしている子どもたちのフォローの必要性を感じている。